

SAH×受験記述模試&共テ模試へのアプロ

一斉と考え方～10月は「4週連続模試」のラッシュ!～

今号は進路指導部とのコラボ企画。3年生は10月に入り、記述模試と共通テスト模試が毎週のように続く「4週連続模試」の時期がやってきました。「自分の勉強時間が削られる…」と焦る気持ちもあるかもしれません。しかし、この10月の過ごし方こそが、来春の合否を大きく分ける鍵になります。その重要なポイントを紹介するので、3年生は内容を理解して自分に取り込み、合格する側に突き進もう。(編集 教頭)

一番やってはいけないこと→【模試の結果＝判定】に一喜一憂すること

この時期の模試で一番大切なのは、「判定」を見ることではありません。今、みなさんが最も確認すべきなのは……「本番までに、あと何点積み重ねるべきなのか」という現状の課題と自身の「伸びしろの把握」です。

10月で終わる「記述模試」のチェックポイント

記述模試は10月で一区切りを迎えます。



す。復習時には以下の2点を徹底的にチェックしましょう。

①解答・解説を読んで理解できるか?

「できなかったが、解説を読んだら理解できた」という問題はありませんか?それこそがあなたの「伸ばしどころ(得点になるところ)」です。それをすぐ確認・復習することが合格(点)に近づきます。

②「部分点」をどう奪い取るか?

数学や国語、歴史の論述問題などでは、「満点か0点か」ではなく「どこまで書いて何点取れるか」という部分点の取り方が合否を分けます。私大入試、国立2次までまだ時間がある。以下の二段階で記述力を上げ得点にする!

◇出力することに慣れるまずはおもかく「言語化」する＝「とにかく書く」

◇得点(部分点)をとる「とにかく書く」から「順序立てて書く」へ進化させる

空欄は絶対NG!(頭で少しわかっていても書かなければ0点になる)採点者に「ここまでは分かっています」と文字で伝える。キーワードとなる用語を書き出し、流れに沿って文章を組み立てる。

「共通テスト模試」の分析と戦略

①取れない原因3選

共通テスト模試で点が取れなかった原因は、大きく3つのパターンに分類できます。復習の際、自分がどのタイプか自己分析してみよう。

②共通テストの「得点戦略」

◇解く順番を決めておく

得点の高い大問や、得意な大問から解く。「捨てる問題」を作る割り切りも必要：例えば「60～70%」を目指す場合、30～40%はできなくても合格ラインに届きます。時間オーバーで最後の大問が残っても仕方ないと割り切るシミュレーションを、今の模試で試しておきましょう。

◇必要なのは「復習」からの『即・入力（インプット）』！

模試は本番ではありません。だから不合格という決定ではありません。しかし、本番で合格するためには、できなかった穴を埋めていかなければ本番も不合格になってしまいます。模試＝予備校が作った「最強の予想問題」です。全国のライバル（浪人生含む）も同じ問題を解いています。「もし、この模試と同じ問題が本番に出たら……？」合否の分かれ目は、「受けた後に自分のものにしたか、放っておいたか」となります。出る確率が高い問題を優先して覚えることは、この時期最も効率的な勉強法です。

◇模試をこの時期に受ける意味：「模試は本番のように、本番は練習のように」

1月の共通テスト、2月の私大・国公立2次試験本番までをイメージしてください。本番を想定して受けられる実戦模試は、あと5～6回しかありません。自分の部屋や教室で過去問を解くのも傾向を掴むのには良いですが、模試の緊張感には敵いません。（※家で過去問を解く時も、本番のような緊張感を持てればさらに効果爆上がりです！）

3年生, be ambitious !

10月にガンガン入力した成果が出るのは、3ヶ月後の「本番」です。夏休みの成果や、9月・10月の模試結果がすぐに出なくても焦る必要はありません。「どこが穴か」「その穴は埋められるか」「第一志望まであと何点か」「どこを覚えれば埋まるか」を愚直に考え、行動できる人が、来春最後に笑うのです。最後に笑うのは誰だ？

【共通テスト模試】原因分析と対策アプローチ

原因パターン	原因の内容	今後やるべきアプローチ
① 知識がなかった 	単語・文法・公式などを覚えていない	該当分野のインプット（知識入力）を行う
② 時間が足りなかった 	知識はあるが読む速さ・処理速度が足りない	速読・演習で「時間内に解くトレーニング」をする
③ その両方 	知識も時間も足りていない	まずはインプット！ +「解く順番・捨てる戦略」を決める